

絵で見る 四天王寺 聖霊会

監修 小野 真龍 作・絵 中田 文花



出版を祝して	瀧藤 尊淳	2
出版のご挨拶	小野 真龍	3
ようこそ聖霊会		4
石舞台の設え		6
道行の諸役		8
舞台前庭儀		10
太子のお目覚め		12
両舍利登高座		14
国指定重要無形民俗文化財 「聖霊会の舞楽」(天王寺舞楽)の歴史		16
伝供		18
菩薩		20
師子(獅子)		22
迦陵頻と胡蝶		24
祭文		26
四箇法要①(唄匿、散華)		28
四箇法要②(梵音、錫杖)		30
太平楽		32
入調		34

写真で見る聖霊会		36
聖霊会の華 舞楽や楽器のことなど		37
聖霊会の舞楽(一覧)(主な現行曲)		38
楽舎と楽器		40
聖徳太子千四百年御聖忌の聖霊会 ～聖霊会の今と昔①～		42
聖徳太子千四百年御聖忌の聖霊会 ～聖霊会の今と昔②～		44
聖霊会の設営風景		46
経供養 ～もう一つの舞楽四箇法要～10月22日		48
浄土曼荼羅と石舞台		50
聖霊会こぼれ話		52
聖霊会的美 中田文花作品集		55
日本画で見る聖霊会		56
ミニチュアで見る聖霊会		58
人形で見る聖霊会		60
短歌で見る聖霊会		62
あとがき		



伝供



文花さんの聖霊会短歌コーナー

連なりて蓮のうてなを運びける 辺陵頻伽の紅き唇



仏教尊格達が手渡して仏前に供物を届ける「伝供」作法は、古代舞樂法会に不可欠の要素ですが、今日ではわずかに聖霊会のみがその盛儀を伝えています。八部衆が面を首から吊るすのも現代では希少な様式です。これらの神聖な尊格たちによる莊重な手渡しの過程で供物は聖化され、その分本尊である太子の尊厳さが強調されます。今日でも神饌に用いられる外来の唐菓子が聖霊会の供物でもあることは、神仏が元来近い関係であったことを示唆しています。(小野真龍)

四し箇か法ほう要よう

舞臺はいいけど
法要はちよつと
むずかしい

大丈夫です
これを読めば
法要が100倍
楽しくなります

中國書局

- ① 唄 (唄屋とし)
② 散華
③ 梵音
④ 錫杖

この四つの声明が
唱えられる法要
という意味です

「唄」を唱える唄師が
東礼盤に着座。附衆(賀王惠)
続いて
「散華」を唱える散華が
舞台上に整列。附衆(天人衆)

それぞれの声明には
リーダーがいて
(唄師、散華師、
梵音師、錫杖師)
頭の発音(ソコ部分)を
唱えます

衆僧

唄師

唄を唱えるには
特別に唄を伝授される
必要があるんです

唄、散華は
セットで進行
します

散華行道

舞臺を廻る
行道の華やかさ
そして舞臺の
散華が見どころ

令和4年の御聖志結願
としての聖喜会では
大行道が行われました

ここに舞楽
四箇法要の中に
挿入される舞楽は
毎年遠う舞が
右方平舞から
選ばれる

このように
雅楽曲と舞楽が
四箇法要の進行を
つかさどるは麗な
スタイルを
「舞楽四箇法要」と
いいます。

梵音
錫杖に
つづく

×聖霊会の実唱部分のみ紹介

香華供養佛

唄と散華
二曲の声明が
同時に唱えられる

始殷喟
如來妙色

衆僧の指の先よりとりどりの
散華舞ひ散る刹那の法悦

聖霊会の舞楽一覽(主な現行曲)

毎年舞われる舞

振鈴(三)

蘇利古(五)

太子お目覚めの舞

地久(四)

仁和楽(四)

四箇法要で舞われる舞

現代では主にここから
左右一曲ずつ
選ばれる

安摩(三)

入調の舞

現代では主に
ここから
一曲選ばれる

抜頭(二)

源氏物語(うたがひ)の時は
右方舞(人数)
左方舞(人数)
左方舞(人数)
作法がある

還城楽(二)

胡人が蛇を飼つて
喜ぶ姿をあらわす

蛇の舞

納曾利(三)

双龍の舞
といわれる

陵王(二)

舞臺の
代表的な曲

散手(二)

貴徳(二)

探榮老(二)

天王寺流では
舞が
所作がある

蘇莫者(二)

天王寺楽人の
舞家が伝えて
きた舞

陪臚(四)

左右舞(人数)
左方舞(人数)

赤字 左方舞(人数)
緑字 右方舞(人数)
紫字 左右から出る舞(人数)

※四人舞の人数は変動することがあります



春庭花(四)

桃李(四)

太平楽(四)

迦陵頻(四)

胡蝶(四)

菩薩

師子

八仙(四)

柏梓(四)

白浜(四)

登天楽(四)

延喜楽(四)

林歌(四)

賀殿(四)

甘州(四)

萬歳楽(四)

承和楽(四)

胡徳楽(六)

一曲(二)

行道の中で
舞われる



聖霊会こぼれ話



さて最後はとうとめなく
聖霊会のこぼれ話を
しましう

雨の聖霊会は
どうなりますか？

面に濡れた
舞妓沙華が
いるに気が
する

- ・中止ではない
- ・石舞台は使用しない
- ・行道がない
- ・法要、伝供、舞楽などは
六時堂の中のため
かなり見えにくい

残念です



聖霊会前の風情

夜の四天王寺を
通ると聞こえてくる
舞楽の遠音

桜咲く頃
蔵の前で
装束の準備をする
楽人さんたちの姿



聖霊会と合わせて
拝観してみましよう

春日若宮おん祭 12月15日・16日
お旅所祭 12月17日

南都樂所が
おん祭の舞楽を
担ってきました



お旅所

御飯殿

芝舞台

楽舎

聖霊会とおん祭は
似ているところが
たくさんあり
聖霊会が実は
神事様式も含んで
いることが見て
来るでしょう

どちらも
本尊や神様に
お出まし頂いて
食べものや舞を
お楽しみ頂きます

法隆寺の聖霊会
舞楽も南都樂所
です



各地の聖徳太子
ゆかりの寺院でも
忌日法要の聖霊会や
お会式があります

法隆寺の聖霊会「大会式」は
現在10年に一度盛大に
厳修されます
※「小会式」は
毎年3月22日・24日



作者です
1400年が経った
聖霊会の1日です
思いがけず5年に
連載になりました



ご清読まことに
ありがとうございます
ございました

天王寺区 伶人町
あはれ天王寺の西側
に天王寺楽人が
住んでいた跡の町
に天王寺楽人が
住んでいた跡の町
に天王寺楽人が
住んでいた跡の町

やつと見れた場面
羅太鼓と楽舎に
渡される板橋
楽人が渡ると
外されます

聖霊会を描いた画家

菅楯彦 1878-1963

大阪を代表する画家
楽人でもあった
天王寺舞楽協会初代会長

楯彦の大きな歌碑や
筆跡が
境内の隅にあります

降る花のちりりたりや聖霊会南水



1889-1978

生田花朝
生田南水の娘
楯彦の弟子
筆跡で活躍



心に残った言葉

聖霊会が存続するには
平和な世の中であることは
もちろん大事ですが
疫病や戦災があっても
聖霊会が残ってきた

困難があるのは世の常
何があっても
絶やしてはならぬ
という気概のある楽人が
この時代にもいた
ということ



小野先生
アデー

ミニチュアで見える聖霊会

舞楽の舞具や楽器の彩色の美しさに
魅せられてコツコツ作っている
ミニチュア作品です。
使用している日本画の絵の具の彩色技法は
千年以上今も変わっていません。
写真の大きさはほぼ実物大。
指先でつまめる聖霊会アートです。

さお
貍杵の竿

龍笛

ちきゅう ほうおうのうろこ
地久の鳳凰甲

胡蝶の羽根

遼陵嶺の羽根

曼珠沙華と燕

たいへいらく けこ
太平楽の鉦

せりこ
蘇利古

かきねしょうぞく
右方 襲装束の文様

はいろ あて
陪臈の楯

ぎょたい
太平楽の魚袋

やなぎけ
太平楽の胡籥

げんじょうらく ばち
還城楽の蛇と桴

ふと まがり
伏兔と曲 (伝供)

散華
(四天王寺の散華を使用)

けいろうこ
鶏婁鼓

こくらく
胡德楽の壺

左方鳥甲

左方鼉太鼓

右方鼉太鼓

さいせうろう
採桑老の鳩杖